

令和7年度 こども発達支援センターのぞみ 外部評価会 議事概要

本外部評価会では、地域の関係機関・教育機関・行政担当者より、児童発達支援センターのぞみの取り組みや課題、今後の連携の方向性について多角的な意見交換が行われました。

なお、本外部評価会には、今年度に関わりのあった一部の関係機関の方々に参加いただきました。三原市内には他にも多くの支援機関がありますが、今回の評価内容はそのすべてを反映したものではありません。

■ 開催日時

2026年 2月 16日(月) 16:00~17:00

■ 参加者

- 指定相談支援事業所 A 相談支援専門員
- 指定相談支援事業所 B 相談支援専門員
- 市内 A 保育所 所長
- 市内 B 保育所 所長
- 市内小学校 校長
- 市内中学校 校長
- 三原市こども安心課 職員
- 三原市障害者福祉課 職員
- こども発達支援センターのぞみ 関係職員

■ 外部評価会次第

- 1 あいさつ
 - 2 こども発達支援センターのぞみの事業紹介
 - 3 令和7年度の事業報告
 - 児童発達支援
 - 放課後等デイサービス
 - 保育所等訪問支援
 - 相談支援
 - 4 令和7年度事業所自己評価、保護者評価結果について
 - 5 まとめと課題
 - 6 コメント・意見交換
-

以下、主なコメントについてまとめます。

1. 相談支援・保護者支援に関する意見と提案

● 指定相談支援事業所 A 相談支援専門員

【意見】相談支援の申請があるものの、保護者のご意向とは異なり、園からの紹介を受けて来所されるケースが見られる。そのような場合、相談には来られてもその後の支援につながらないこともあり、市とも連携しながら継続的なアプローチを行っている状況である。

【提案】今後、保護者への関わり方や支援の進めていく上で、児童支援の専門であるのぞみと協力しながら共に検討していきたい。

● 指定相談支援事業所 B 相談支援専門員

【意見】相談支援をする中で、のぞみでは、さまざまな課題を抱える子どもたちを幅広く受け入れ、きめ細やかな支援が行われていると感じる。また、のぞみでの経験を通して、新しいことに挑戦しようとする子どもが増えている。

【提案】人材育成については、どの機関においても共通する課題であり、「大変ではあるがやりがいを感じられる」環境づくりが重要であると感じている。

上記同様、相談支援においては、支援につながるまでに“つまり感”が生じることもあるため、センターと協力しながら進めていきたい。

● 市内 A 保育所 所長

【意見】園での困り感を保護者へ伝えても理解が得られにくく、受診や相談につながりにくいという課題がある。一方で、のぞみと連携しているケースでは、複数の支援機関が関わることで、子どもに必要な支援がより明確になるという効果があった。

【提案】園では、子どもの困り感だけでなく職員自身の困り感も大きく、人材育成や職員への支援が重要だと感じている。そのような職員への支援を、研修などセンターにも協力していただきたい。

また、園だけでは解決が難しい課題が多く存在するため、地域全体で取り組むような仕組みづくり、支援体制の整備が必要であると感じている。

● 市内 B 保育所 所長

【意見】のぞみで療育を受けている子どもについては成長が見られ、保護者も生活リズムを大きく変えることなく利用できるのがよい。一方で、3歳児健診や相談から支援につながるケースは増えてきているものの、つながらないケースも依然多く、課題となっている。

【提案】就学へのよりよい移行のために、就学前に保育・福祉の支援体制を整えられることは重要であり、保護者への相談援助機能の充実のためにのぞみの中核機能で支援をして欲しい。

また、幼通協で行われている巡回相談で得られる助言は職員にとって大きな学びとなっており、継続的に実施して欲しい。

2. 教育機関からの意見と提案

● 市内小学校 校長

【提案】校区内にのぞみのような支援機関が複数存在しているものの、何をしているのかどのようなことができるのか知らないことが多い現状にある。まずは各機関の役割や機能を知ることが第一歩であり、そのような機会を地域で作って欲しい。また、のぞみが行っている訪問支援や相談機能について、より多くの学校等に周知していく必要があると思う。

● 市内中学校 校長

【意見】のぞみと繋がっている生徒が、のぞみや学校との関わりを通して自身の困難さを校長に相談してることがあった。自身の苦手なところを前向きに捉えられ、誰かに相談できることは思春期を乗り越えるためにとても必要だと感じる。また、のぞみの職員が学校を訪問した際には、生徒から笑顔で声をかけており、生徒自身が自分の理解者だと認識していると感じる。

【提案】学校訪問の際に、連携のあった担任だけでなく、校内研修などを通じてより多くの教職員が話を聞く機会を設けて欲しい。さらに、合理的配慮について十分に理解できていない教職員も多いことから、様々な研修の必要性を感じている。

3. 行政・関係機関からの意見と提案

● 三原市こども安心課 職員

【意見】のぞみをはじめとする支援機関が地域に複数存在しているものの、十分に連携が図られていない現状にある。顔の見える関係づくりが重要であり、まずは互いの取り組みや役割を理解し合うことが連携強化の基盤になると思う。

【提案】のぞみの取り組みは多岐にわたっており、今後も中核的な役割を担っていただきたい。三原市としては、のぞみのノウハウを他の事業所にも広げていくことを期待しており、勉強会の開催などについても、三原市も協力しながら取り組みを進めていきたい。

● 三原市障害者福祉課 職員

各機関ごとに制度上の壁が存在し、互いの事情を理解し合うための場を設ける必要がある。すでに築かれている連携関係を基盤として、そこからさらに関係を広げていくことが重要であり、自立支援協議会や日々の連携、中核機能等で進めていって欲しい。「親も子どもも住みやすい街づくり」を目指し、福祉、教育、行政等の関係機関が協力しながら取り組みを進めていく中心でのぞみに動いていただきたい。

4. まとめ

本外部評価会では、相談支援、保育・教育機関、行政など多様な立場から、のぞみの取り組みと地域の発達支援の課題について意見が寄せられました。地域が抱えるテーマとして以下の5つが挙げられました。

①保護者の充実②地域の支援者の育成③保育、教育、療育などが一体となる三原市の支援の仕組みづくり④サービスに繋がっていない子どもへの支援の充実⑤支援機関同士の連携 です。

これらを受け、来年度はできることから取り組んでいき、子どもと保護者にとってよりよい支援を行ってけるよう努めて参ります。